



節目を大切に



校長 弥生 陽子

暖かく眩しい日差しが心地よく感じられるようになりました。3月17日に卒業証書授与式を行いました。保護者の皆様や地域でお世話になった方、在校生に見守られ、43名の卒業生が道下小学校を巣立ちました。心のこもった呼びかけや感動の歌声に包まれ、温かくそして厳粛な雰囲気の中で行うことができました。卒業生一人一人の顔は、小学校生活6年間を終えた自信と充実感に満ちていました。中学校という新しいステージで、これまでに培った力を発揮してくれることでしょう。



修了式では、この一年間で大きく成長したことを褒め、その成長の陰には地道な努力があること、みんなの努力を合わせると大きな成果が得られること、これからもみんなで道下小学校をつくっていく努力が大切だという話をしました。

子供たちは、小学校生活でそれぞれに「節目」を迎えました。「節目」の語源は竹の節とされています。竹は、他の木々にはないたくさんの節をもつて空にまっすぐに成長します。竹は、風が強いとその風を竹全体で受け止め反り返るしなやかさと、跳ね返すたくましさをもっています。そのしなやかさとたくましさは、規則正しい節目にあるとされます。節をつくり、外からの多くの力をしなやかに受け止め力強く成長する竹の姿は、子供たちが目標に向かって頑張る姿と重なります。また、学びの過程は、目に見える行動や成果だけではなく、努力の大切さや自分を支えてくれる周りへの感謝の心も教えてくれています。先日も、一年間お世話になったパトロール隊の方から「心の込もった『ありがとう』がとてもうれしかった」とお声をいただきました。しかし、現実には人間関係をはじめ、様々な困難に子供たちは遭遇します。だからこそ、それぞれの成長の節目において「目当て」をもって進み、振り返りまた修正して進む...。その積み重ねが、しなやかさが「生きる力」となっていくと考えるのです。

この一年、たくましくしなやかに成長できたでしょうか。「のびゆく子」に記されているお子さんの頑張りについて親子で振り返っていただくと共に、おうちの方が感じられた頑張りについてぜひ話してあげてください。明日から学年末休業に入りますが、お子さんが考えた進級学年の目標や希望について語り合い、準備をしていただけたら幸いです。

令和4年度も保護者の皆様をはじめ、地域の皆様のご協力やご支援をいただきましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度、本校は創立150周年を迎えます。まさに節目の年です。子供たちと共に歴史を振り返りながら目当てをもって記念すべき一年を過ごしていきたいものです。交通事故等に十分に注意してお過ごしいただき、新学期に元気いっぱいの笑顔で登校してくれることを教職員一同楽しみにしております。